

製品名: CaMKI β ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07894**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	38kDa

抗原情報

遺伝子名	PNCK
別名	PNCK; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase type 1B; CaM kinase I beta; CaM kinase IB; CaM-KI beta; CaMKI-beta; Pregnancy up-regulated non-ubiquitously-expressed CaM kinase
遺伝子 ID	139728.0
SwissProt ID	Q6P2M8
免疫原	抗血清はヒト CaMK1-beta 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 161-210

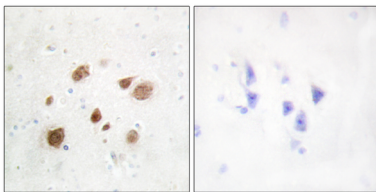
背景

PNCKは、タンパク質セリン/スレオニンキナーゼのカルシウム/カルモジュリン依存性タンパク質キナーゼファミリーのメンバーです (CAMK1、MIM 604998 を参照) (Gardner et al., 2000 [PubMed 10673339])。[OMIM 提供、2008年3月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質、酵素調節: Ca (2+) /カルモジュリンによって活性化、機能: カルシウム/カルモジュリン依存性タンパク質キナーゼは、カルシウムによって引き起こされるシグナル伝達カスケードに属すると考えられています。試験管内において CREB1 および SYN1/シナプシンI をリン酸化します。CAMK1 をリン酸化・活性化します。PTM:CAMKK1 によってリン酸化されます。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。CaMK サブファミリー。類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含みません。

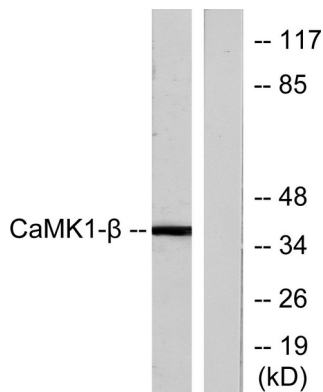
研究分野

-

画像データ



CaMK1-beta 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



LOVO 細胞ライセートを H₂O₂ 100μM 30分処理し、CaMK1-beta 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。